

感動の苗場山(2145m)山行報告

【山行日】2019年 8月 25(日) 晴れ後曇り

【集 合】岩舟支所P AM 4:00

【費 用】マイカー1台 : 3,900円

【メンバー】CL:鈴木、SL梶内、安西、関、
五月女、福島

【コースタイム】岩舟支所P4:00=小赤沢登山口

P6:40/7:00~坪場 9:20/9:30~頂場小屋

10:10/10:20~苗場山頂 10:25~湿原 2068m 地点

10:40/10:50~ベンチ 11:05/11:40~坪場

12:10/12:20~小赤沢登山口 P14:30/14:45=

岩舟支所P18:20



アプローチ

「苗場」というとスキーかユーマンコンサートのイメージだった。昨年HPを見て「苗場山」という山があることを知った。山行案内で「見るものを驚かす『神々の田圃(たんぼ)』が広がる雲上の大湿原」とあり、楽しみにしていた。説明で「小赤沢登山口から登った方が景色がいい。」と聞き、更に楽しみにしていた。

塩沢石打ICで高速道を下り、353号線、117号線、405号線と進み、苗場山の西側に回り込む。ICからが長いと言われたが、楽しみで少しも気にならなかった。小赤沢川を渡るとすぐ左に曲がり小赤沢登山口へ。準備・トイレ・ストレッチを済ませ出発。50台駐車可能でいつもはもっと車が多いと言われた。本日は登山口に近い方に10台位。山は空いている方が楽に登れる。空いていてよかったと思った。

初めは緩やかな登り

小赤沢登山口は既に三合目なので、九合目まで頑張れば素晴らしい景色が待っていると考え、安心して登り始めた。明るい緩やかな傾斜を、植物を見たり鳥の声に耳を澄ませたりして楽しく登って行く。ブナらしい広葉樹林帯の道。大木もある。木の根が露出した箇所は歩きづらい。2・3日前の雨が残り滑りやすい箇所もある。慎重に歩いて行く。途中Sリーダーが「チタケ」を発見。4合目で休憩。衣服調整も行う。凍ったパイナップルが美味しかった。

また緩やかな傾斜を登って行く。日陰なので気持ちがいい。五合目で休憩。かりんとうを食べてSさんはご機嫌。栃木市の金樹屋のかりんとうは手作りで美味しい。塩タブレットもいただいた。

六合目までは、針葉樹林帯の薄暗い道。涼しい。輪切りにした切株が道に敷いてある。これを埋めるのも大変だったろうなあ、と感心する。ぬかるんでいるが、切株木道のお陰で歩き易い。小さな沢を渡るような箇所もある。乾いた石に足をしっかり乗せるようにする。

急登で大汗

六合目からは岩交じりの急登。「おっ、来たな。」という感じ。足場を決めながら登って行く。オヤマリンドウの農青が美しい。七合目で休憩。コーヒーゼリーをいただく。

七合目からクサリ場が出現。ガイドブックに胸突き八丁と書いてあった。標高差200m。急な岩場だがクサリを使わなくても登れる。クサリは使わない方が前の人を待たなくてよいので登り易い。自分

のペースで登れる。が、クサリ場を登るうち息が弾んできた。汗が噴き出す。明るい頂上に向かっているのは分かるが、なかなか辿り着かない。クサリ場を何か所か過ぎた。口を開けたまま肩で息をするようになった。Sリーダーの「もう、ちょっと。」を信じて頑張る。最後の急な岩場を登り切ると草原らしくなった。まだ階段がある。必死で登り詰めると明るい湿原に…。汗が、汗が…目に入る！背中と胸もびっしょりだった。

坪場・樹林帯・いよいよ湿原

休憩所があり、ここが坪場とのこと。本日初めての写真を撮っていただく。山を見るとあっという間にガスが…。次の晴れ間を期待する。周りの景色を楽しみながらカップのオレンジゼリーをいただく。丁度よく解けていて美味しい。

湿原の木道を緩やかに登って行きオオシラビソの樹林帯に入る。道は岩場で歩きにくかった。樹林帯を抜けるといよいよ広大な湿原。ガスっていても、とてつもなく広いことは分かる。1000個以上の池塘があるそうだ。池塘を真近に見ながら木道を歩く。景色に感動！素晴らしい。広い！4km四方。2000mを超える山の山頂がテーブル状になっている。これほど広大な高層湿原が広がる山は苗場山だけとのこと。来てよかった。

苗場山自然交流センター・山頂・湿原2068m地点

自然交流センターに寄りトイレを済ませる。500円硬貨でお願いして400円のお釣りを貰った。山頂近くのトイレはありがたい。灌木の間を100m歩くと苗場山山頂だった。徒歩1分。灌木に囲まれているので眺望は無い。大菩薩嶺もこのような感じだったと思い出す。苗場山山頂の標柱があった。写真を撮っていただく。



写真を撮っていただく。

広い休憩所まで降りた。ザックを置いてもよいと言われたが背中が寒いので背負っていくことにする。ケルンの先を左に曲がり赤湯温泉方面への木道を進む。赤湯温泉は昨年S月女さんが宿泊したとのこと。そちらから登ってくるのは大変だそうだ。Sさんが「晴れていれば山々が全部見える。」と教えてくれた。太陽が出てないので方角が分かりにく

い。どうやら南に向かっているようだ。東に谷川連峰、北東に巻機山・越後三山があるらしい。

Sリーダーはのんびりと歩いているつもりらしいが、初めての自分は木道を滑らないように必死で歩く。来る人が無いので助かる。「ここが2068m地点。もう少し歩きますか？」の問いに「景色をゆっくり見たい。」と答える。モウセンゴケがあった。感動！イワショウブ・ワタスゲ・イワイチョウの白、キンコウカ・アキノキリンソウの黄色…。歩きながらチラッと見ても、止まってじっくり見ても感動！来てよかった。スイカを食べたら休憩所に戻る。スイカがみずみずしくて美味しかった。

休憩所で美味しいうどん

広い休憩所は数名の登山者がランチを楽しんでいた。Sリーダーが休憩所の一角でうどんを作りつてくださる。食器はK内さんが運んでくれた。キノコ、鶏肉の出汁が効いて、天ぷら、ネギが乗ったうどんはとても美味しかった。体に沁みた。キュウリも美味しかった。楽しいランチの時間はあっという間に終わった。

下山も帰路も楽しく

下山は来た道に戻る。花が繰り返し見られるので、名前も口の中で繰り返して楽しんだ。石仏が幾つかあった。Sさんが興味を持ったが、Sリーダーはさっさと進む。自分も興味があったが、「天照皇大神」「猿田彦」を読むのが精一杯だった。神話の神様かな？



樹林帯で青紫色のきれいな松ぼっくりを見た。後で調べたら「オオシラビソの雌花」。雄花は小さい茶色で下の方にあるという。サファイア色と表現する人もいた。本当に美しかった。

坪場でマスカットを食べる。種なしで皮ごと食べられるので便利だと思う。六合目まで岩場を皆さん上手に下りて行く。六合目で休憩。ゼリーをいただく。濃青のオヤマリンドウをたくさん見た。ピンクの花はシオガマかな？

急降下の岩場が無くなっても、岩や木の根で大変。疲れているので足が上がりなくなる。一瞬気が緩んだら右足がぬかるみに入った。靴が汚れた。最後まで気を引き締めて行こうと思う。カニコウモリの白い小さな花が励ましてくれるように思えた。

Sさんが「苗場山はだれのリクエスト？」と言う。そういうことを気にしたことはなかった。「去年12月のアンケートに書いた覚えはある。」と答えると「じゃあFさんだよ。」と言われた。「そうなんだ。」と不思議な気持ちになった。

四合目過ぎてSさんが「チタケ」を見つけた。続けてAさん、S月女さんも。下りが活気付いて楽しかった。後で調べたら、栃木県では乳茸をチタケといい好んで食べる、とあった。

小赤沢登山口Pに戻ると、残った車は5・6台。靴を履き替えトイレを済ませ帰路につく。405号線まで半分位進んだ所に「大瀬の滝」があった。落差15m。立派な滝を車中から見せて貰った。

直売所でスイカを買ったらミニトマトのおまけが付いた。生産者の方の気持ちありがたい。雨がパラパラきたので魚屋には寄らず塩沢石打ICへ。車中はAさんを中心に話が盛り上がり楽しかった。出流原PAでトイレ休憩を取り、無事岩舟支所に帰着した。

(福島 記)

